



公立大学法人 横浜市立大学  
令和 8 年度  
年度計画



令和 8 年 4 月

## 令和8年度計画の主な取組

### YCU ミッション

国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

第4期中期計画(令和5～令和10年度)の4年目となる令和8年度計画では、YCU ミッションのもと、本学の3つの核である「教育・研究・医療」各分野の取組を着実に推進します。あわせて、令和7年1月に採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に全学を挙げて取り組み、地域中核大学として、研究力の強化と大学改革を加速します。

法人経営面では、厳しい経営環境が続く中、令和7年度に策定した大学部門の「経営改善プログラム」を着実に実行するとともに、附属2病院における経営改善を一層推進し、持続可能な経営基盤の強化を目指します。

※【数字】は関連する計画番号を示します。

### I 教育

#### ■全学的な数理・データサイエンス・AI教育の検討、教学IR等による教育改善【1】【2】

我が国の2040年に向けた労働需要推計では、デジタル化や生成AIの進展により、数理・デジタル分野の専門人材や新たな価値を創出する人材の不足が見込まれています。こうした状況を踏まえ、文理融合の観点から理系的素養を備えた人材育成への教育の質的転換が求められています。

本学では、令和9(2027)年度のデータサイエンス学部の入学定員増に向けた教育研究環境の整備を進めるとともに、国際教養学部、国際商学部、理学部における数理・データサイエンス・AI教育の充実を図ります。

また、教学データの集積・可視化を通じて学修成果の把握と評価を進めるとともに、教育改善に活用します。

#### ■医学部教育改革の実施【4】

「医学部教育改革プロジェクト」により、医学科における過密講義の見直しや開講スケジュールの適正化を進めます。これにより、医学教育分野別評価での指摘事項に準拠した学習計画を設定することで、医学教育の質向上に繋げる取り組みを強化します。

#### ■データサイエンス学部の機能強化【3】【5】

社会が求めるデータサイエンス人材の育成を一層推進するため、令和9年度からデータサイエンス学部の入学定員を60名から120名に拡充します。文理の枠にとらわれず、数理・統計・計算機に関する基礎的かつ体系的な知識と技術を修得させるとともに、医療や経済、都市・社会分野における課題解決力を養います。

また、企業や官公庁等と連携した実践的な学びを通じて、データに基づき意思決定できる高度専門人材の輩出を目指します。

令和8年度は、文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」を活用し、教育研究環境の整備及び教育課程の改編を継続して進めます。

#### ■博士後期課程学生及び博士進学志望者への支援【5】【6】【10】

我が国では、経済的不安や修了後のキャリア不透明の不安等から、博士後期課程への進学者数及び進学率がいずれも減少傾向にあり、博士人材への支援が急がれています。本学では、「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」を通じて、博士後期課程学生に対し、継続的に経済的支援及びキャリア支援等を提供し、「科学技術・イノベーション」を創出する人材を育成します。

令和8年度は、博士後期課程学生への支援に加え、博士後期課程への進学を検討している学生に対しても、研究力向上セミナーや企業交流会等の機会を提供するなど、博士後期課程への進学を促します。

#### ■社会連携センターの設置による産官学民連携の推進【5】【6】【11】【38】

これまでの地域貢献センターの機能を発展させ、みなとみらいサテライトキャンパスを拠点とした、新たな産官学連携組織「社会連携センター」を始動します。

本センターの社会人教育・教育連携部門では、企業と連携した社会人向けの学び直し(リカレント)プログラムの企画・運営を行うほか、PBL(課題解決型学習)などの教育活動において、企業との連携を新たに進めていきます。社会連携部門では、教員の地域貢献活動を支援する事業を通じて、自治体や企業等との新たな連携を生み出すとともに、J-PEAKS の取組として市民参加型研究(シチズンサイエンス)の推進に取り組みます。

## II 研究

#### ■地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)を通じた研究力の向上【12】【13】【14】【15】【16】

令和8年度は、研究戦略立案を支える組織の設立、本学の将来の研究力を担う中核的研究者を重点的に支援する「卓越教員制度」の開始等をはじめ、「研究力向上」「産官学連携の促進」「地域貢献」に資する研究活動の推進に向けた具体的取組を加速させます。

#### ■オープンイノベーションラボ(産官学共創オープンイノベーション研究施設)の活用促進【14】

学内外の連携創出、研究活動の活性化に向けてオープンイノベーションラボ(令和6年度開設)について、国内では稀有な全方位に LED ディスプレイを配置し、360 度すべてが映像に包まれる空間(Immersive studio)の整備をはじめ、メンタルヘルス研究領域を中心として先端的な研究機器を導入し、産官学連携を促進します。

## III 医療

#### ■【附・セ】電子カルテ統合による新病院情報システム稼働【19】

附属2病院の電子カルテを統合した新病院情報システムの稼働を開始します。新システムでは、パッケージ利用・ノンカスタマイズを原則として費用削減に努め、将来の病院統合も見据えて2病院の業務運用を調整しました。また、主要部分では1システム・1サーバとすることにより、2病院間の相互連携を一層強化していきます。

#### ■【附】手術支援ロボット拡充による低侵襲手術推進【21】

新たに導入した最新の手術支援ロボットであるダヴィンチ5及び単孔式のダヴィンチ SP を活用し、患者負担の少ない低侵襲手術をさらに推進します。いずれも県内での導入施設は少ないことから、大学病院の使命として、同ロボットを使用した研究や、操作者・指導者等の育成にも積極的に取り組みます。

#### ■【セ】救急応需体制の継続と課題解決【23】

令和7年度までに実施してきた、各科から救急(ER)部への医師拠出による体制強化、二次救急輪番への参加による救急患者の更なる受入、内科当番制による入院受入体制の構築等の取組を継続し、加えて、小児救急の受入も並行して強化することにより、成人・小児救急の総受入件数の増加を目指します。

#### ■【附・セ】2病院の経営改善の取組【20】【39】

令和8年度は診療報酬改定の年度にあたることから、改定内容を踏まえた新たな施設基準への適切な対応を進めるとともに、DPCデータの分析やクリニカルパスの見直しなど、医療の質向上に向けた取り組みを多職種が連携して病院全体で推進します。

また、より効率的な病院経営に向けて、病院長ミーティングやコマンドチームミーティング等においては、各種データを活用した診療科単位での経営改善を推進します。

附属病院では、最新の手術支援ロボットの積極的な活用や手術室の効率的な運用により手術件数の増加を図ります。また、土日の病床稼働の向上や、多職種協働による各種加算の算定強化に取り組むなど、入院患者数の増加および入院診療単価の向上を目指します。

センター病院では、高度救命救急センター、救急(ER)部、各診療科が一層密接に連携し、二次救急・三次救急の応需体制を安定的に確保することで、「断らない救急」を継続していきます。加えて、紹介から入院、退院から逆紹介へと至る患者の移行を一体的に管理する Patient Flow Management(PFM)を強化し、救急搬送から入院、地域医療機関への円滑な連携まで、切れ目のない体制構築を推進します。

## IV 法人経営

#### ■法人全体の経営改善の確実な実行【29】

大学部門では、令和7年度に開始した「経営改善プログラム」に基づき、外部資金獲得、人件費適正化、拠点見直し、維持管理費の見直し、収益確保等を確実に進めます。加えて、附属2病院における経営改善を一層推進し、法人全体としての持続可能な経営基盤の構築を加速させるとともに、収支均衡を目指します。

#### ■外部資金獲得戦略の強化【28】

寄附戦略に基づき、法人トップ(理事長、学長等)とファンドレイザーが先頭に立って、寄附獲得に向けて、法人の特徴を活かした大型寄附やOB組織との連携強化による継続的な寄附獲得に取り組みます。

また、組織体制を強化することにより、学内資源を活用したアセットマネジメントや外部資金拡充を進めます。

#### ■生成AI・RPAツールの普及・活用【27】

AIエージェントやRPAツールの活用事例の共有や研修等の実施により、法人内の業務の自動化・省力化を促進します。

# 目次

I 教育	6
1 新たな時代を見据えた教育の提供	6
2 5学部6研究科における教育の充実	9
3 時代に即した学修環境・学生支援の提供	15
4 多様で優秀な人材の獲得と輩出	17
5 社会人の学び直し	19
II 研究	20
1 先進的・学際的研究等の推進	20
2 オープンイノベーションの推進	22
3 研究基盤の強化及び支援体制の整備	23
III 医療	25
1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組	25
2 質の高い医療の提供	29
3 政策的医療への貢献、地域医療の推進	31
4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	33
IV 法人経営	34
1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化	34
2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保	35
3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立	38
4 教職員エンゲージメントの向上	40
5 YCU の価値向上	43
6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進	47
7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進	48
8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり	50
V 自己点検及び評価	52
VI 地域貢献(横断的項目)	53
VII グローバル展開(横断的項目)	53
VIII 短期借入金の限度額	53
IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	53
X 剰余金の使途	53
XI その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	53

---

## 標記の説明

(※重点)：重点指標      ◆：中期計画指標

(VI地)：横断的項目である「VI 地域貢献」の関連指標

(VIIグ)：横断的項目である「VII グローバル展開」の関連指標

【附】：横浜市立大学附属病院

【セ】：横浜市立大学附属市民総合医療センター（センター病院）

## 1 新たな時代を見据えた教育の提供

### 【1】教育の質保証

全学組織である高等教育推進センターを中心に、教学IR<sup>1</sup>やFD<sup>2</sup>・SD<sup>3</sup>の取組を推進するとともに、自己点検の実施及び大学機関別認証評価の受審を通して、部局や分野を横断した教育プログラム改善のPDCAサイクルを実行し、教育の質保証を図る。社会の変化や高等教育のトレンド、学内における先進的な取組に関する情報を収集し、社会情勢に即した新たな教育を全学に展開することにより、教育の質向上につなげる。

主な指標	◆教学IRと連動したFD実施回数:1回/年 ◆FD・SD受講率:85%/年 ◆大学機関別認証評価:「認定」/令和9年度受審予定
------	---

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 3ポリシーの点検と教育改善のための教学IR活動(学修成果の把握と評価)、FD・SD活動(教学IRを踏まえた教育改善)の推進(\*重点)
- ② 学生視点を取り入れた教育の質保証の推進
- ③ 医学教育分野別評価受審を通じた医学教育の質保証の推進
- ④ ◆第4期大学機関別認証評価の受審対応と内部質保証システムの運用

##### 【定量的指標】

- ⑤ ◆教学IRと連動したFD実施回数:1回/年
- ⑥ ◆FD・SD受講率:87%/年

<sup>1</sup> IR(Institutional Research):計画立案、政策形成及び意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能のこと

<sup>2</sup> FD(Faculty Development):授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組

<sup>3</sup> SD(Staff Development):教職員の職能開発のための組織的な取組

1 新たな時代を見据えた教育の提供

【2】全学共通の教育の推進

学部教育では、社会情勢の変化やICTの進展等を踏まえて、全学部生が履修する共通教養教育や領域横断型プログラムを見直し、データ思考教育など時代に即した教育の充実を図る。また、大学院教育では、研究科を超えた学際的連携を推進するほか、最先端の教育研究機器の活用を進め、教育研究の充実と向上を図る。学部・研究科や分野を超えた連携を推進し、領域横断型教育を実践する。加えて、学部・大学院教育を通して、近年社会から求められている研究倫理に関する取組を体系的に継続して実施していく。さらに、本学が目指すグローバル教育の方針を策定し、国際的にリーダーシップを発揮できる人材の輩出に資する留学体系を整備し、質の高い多様な留学プログラムを構築するとともに、国際共修プログラム<sup>4</sup>等の拡充により充実を図る。

主な指標	◆学生満足度(共通教養カリキュラム評価関連):83%/年 ◆数理・データサイエンス・AI教育プログラム履修率:50%/年(令和7年度以降) ◆領域横断型プログラム修了者数(数理・データサイエンス・AI教育プログラムを除く):300 人/期間中
------	---

令和8年度

【定性的指標】

① グローバル教育方針に基づき、海外大学とのダブルディグリープログラムや、各学部の特徴につながるグローバル教育プログラムの設置支援を進める。(VIIグ)

② 研究倫理教育の実施

【国際教養学部】	研究倫理に関するファイルを学年毎の Teams 及びゼミ毎に展開し、確認書をゼミ教員に提出して受講確認を実施
【国際商学部】	サーベイ実験などにおいては、ゼミごとに適切に事前指導を実施
【理学部】	学生実習、研究室配属時に各教員が研究倫理教育を実施
【データサイエンス学部】	研究倫理教育科目(データサイエンス倫理)を必修科目として実施
【都市社会文化研究科】	国際教養学部と協調し、研究倫理に関するファイルを学生向け Teams 及びゼミ毎に展開し、確認書をゼミ教員に提出して受講確認を実施
【国際マネジメント研究科】	新学期オリエンテーションにおける研究倫理教育の徹底

<sup>4</sup> 国際共修プログラム:外国人留学生と日本人学生等、多様な文化的・言語的背景を持つ学生がともに学び合うプログラム

【生命ナノシステム科学研究科】 博士期課程1年次・後期課程1年次生必修科目での講義と議論、副指導教員面談の活用

【生命医科学研究科】 博士前期・後期1年次生必修科目での講義と議論、副指導教員面談の活用

【データサイエンス研究科】 応用倫理学を必修科目として実施

③ 医理連携など学部・研究科間での連携事業(セミナーや講義の聴講、早期履修等)の実施

【理学部】 ・医理連携協議会の実施、リサーチ・クラークシップ受け入れ  
・理学部/理学系交流セミナーの実施と学内開放

【生命ナノシステム科学研究科】 研究に基づいた国際交流の実施、ダブルデGREE

【生命医科学研究科】 医理連携に係る協議会・セミナーの実施

【定量的指標】

④ ◆学生満足度(共通教養カリキュラム評価関連):83%/年

⑤ 学生満足度(各種留学プログラム)(VIIグ):80%/年

⑥ ◆数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)履修率:50%/年

⑦ ◆領域横断型プログラム修了者数:60人/年

# 1 教育

## 2 5学部6研究科における教育の充実

### 【3】〈国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部〉

各学部の特長を活かした専門教育により、各分野の基礎から応用にわたる知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を有し、社会課題の解決を担う人材を育成する。あわせて、数理・データサイエンス・AI等の社会の変化に対応する知識を養う教育プログラムを提供する。

さらに、地域社会、企業、研究機関等との連携・協働も含めて得られた「総合知」を活用し、社会の諸課題への確に対応できる人材を育成する。

主な指標	◆学生満足度(カリキュラム評価関連):87%/年 ◆学生による学修成果の評価状況(カリキュラム評価関連):第3期の水準超
------	---

### 令和8年度

#### ① 社会の変化に対応する知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を養う教育プログラムの提供(Ⅶグ)(\*重点)

【国際教養学部】	【定性的指標】 ・グローバル教育の質的向上のため、履修指導及びデータサイエンス教育の拡充を検討(令和9年度実施に向けて) 【定量的指標】 ・留学等経験者数(交換留学や自己手配等すべてを含め):150名以上/年
【国際商学部】	【定性的指標】 ・海外体験の質的向上(3年次後期~4年次前期の交換留学)を見据えた学部間交流協定の推進 【定量的指標】 ・「国際商学部データサイエンス人材育成プログラム」認定者数+交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等の経験者数(Ⅶグ):110名以上/卒年次生
【理学部】	【定性的指標】 ・理学部に適したデータ科学教育カリキュラムの設定と一部開始 ・現カリキュラムの検証と必要に応じた見直し ・入学定員増後の入試結果の検証と優秀な学生確保への取組 【定量的指標】 ・交換留学、長期休暇等を利用した短期留学又は語学研修等(オンラインを含む)の経験者数(Ⅶグ):10名/年

【データサイエンス学部】

【定性的指標】

・文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」によるデータサイエンス学部の再編準備の完了

【定量的指標】

・「データサイエンス人材育成プログラム」(数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベルプラス)認定)受講者割合:90%/年

---

【定量的指標】

- ② ◆学生満足度(カリキュラム評価関連):87%/年
- ③ ◆学生による学修成果の評価状況(カリキュラム評価関連)
  - ・自ら課題を見つけ、それを論理的に解決できる能力:94%/年
  - ・豊かな教養:94%/年
  - ・高い専門的能力:84%/年
  - ・国際的視野:69%/年

2 5学部6研究科における教育の充実

【4】〈医学部〉

医学部の使命である「地域社会や国内外で活躍できる医学・看護を担う人材育成」を進めるため、モデル・コア・カリキュラム<sup>5</sup>改訂への対応、医学教育分野別評価<sup>6</sup>の受審等を通して、カリキュラムや授業方法等の見直しなど継続的な医学教育の改革・改善を図る。

また、学生ニーズに対応した留学プログラムの構築及び医療現場・医療研究で活用できる実践的な英語力を身に付けるための取組を進める。さらに、看護学科では、附属2病院と協働して優秀な看護師等の養成及び人材育成を一体的に進める。

主な指標	◆医学教育分野別認証評価：「認定」/医学 令和5年度受審、看護 令和9年度受審予定
------	---

令和8年度

【定性的指標】

- ① ◆医学教育分野別認証評価・医学(\*重点)
  - ・ 指摘事項の継続改善(令和5年度受審)
  - ・ 医学教育改革 WG 主導による2年生過密講義スケジュールの解消
- ② ◆医学教育分野別認証評価・看護
  - ・ 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に伴う新カリキュラムの検討
- ③ 看護学科実習運営を附属2病院看護部と協働

<sup>5</sup> モデル・コア・カリキュラム:各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの

<sup>6</sup> 医学教育分野別評価:受審大学がグローバルスタンダードに基づいた自己点検評価と外部評価により教育の質を改善していく制度

# 1 教育

## 2 5学部6研究科における教育の充実

### 【5】〈都市社会文化研究科・国際マネジメント研究科・生命ナノシステム科学研究科・生命医科学研究科・データサイエンス研究科〉

各研究科の特長を活かすとともに、データ思考人材、イノベティブ人材を育成する教育研究体制を構築する。高度な専門性と研究力を有し、学際的視点をもって複雑な社会課題の解決をリードして社会に貢献する人材をより多く輩出するため、特に、学士課程～博士前期課程～博士後期課程の進学(一貫教育)や社会人教育を推進する。

主な指標	◆学際的連携の推進
------	-----------

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① ◆【全研究科】学際的連携の推進
- ② 高度な専門性と研究力を有し、学際的視点をもって複雑な社会課題の解決をリードして社会に貢献する人材を育成する。(＊重点)

##### 【都市社会文化研究科】

##### 【定性的指標】

- ・データサイエンス研究科教員との連携研究の強化
- ・アドバンストエクステンション講座の推進

##### 【国際マネジメント研究科】

##### 【定性的指標】

- ・リカレント教育プログラム(ソーシャル・イノベーション研究プログラム(SIMBA)等)の推進
- ・学内生に向けた大学院進学の情報提供の充実

##### 【定量的指標】

- ・社会人特別選抜入試説明会の参加者数:10名以上
- ・入試説明会(計2回)における市大生の参加者数:6名以上

##### 【生命ナノシステム科学研究科】

##### 【定量的指標】

- ・社会人博士後期課程学生の獲得、秋入試の実施
- ・国際リトリートプログラム(海外フィールドワーク、さくらサイエンス、NEXUS、SPRING等との共催)による、研究を通じた国際交流の実施及びダブルディグリープログラムの締結

##### 【定量的指標】

- ・社会人博士後期課程学生を1名以上獲得
- ・海外フィールドワークなどにより国際ミニシンポジウムへの10名以上の参加

##### 【生命医科学研究科】

##### 【定性的指標】

- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム事業(SPRING)と連携し、社会人学生を含む博士後期課程における研究教育の向上
- ・学士課程～博士前期課程～博士後期課程の進学(一貫教育)を推進

【データサイエンス研究科】

【定性的指標】

- ・文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」による博士前期課程の入学定員増を受けた教育環境整備の実施（\*重点）
- ・ヘルスデータサイエンス専攻の学内推薦入試の実施
- ・医学研究科とヘルスデータサイエンス専攻との研究科間デュアルディグリープログラムの設置に向けた共通科目の設定

【定量的指標】

- ・データサイエンス学部からの両専攻への進学者数（令和9年4月入学者数）：  
20名/年

---

③次世代研究者挑戦的研究プログラム事業（SPRING）の推進（\*重点）

- ・令和9年度からの再支援申請に向け、学内関係部署と連携してキャリア支援制度を見直すとともに、他大学との連携・交流を通じて学生の視野を広げる取組を進める。

## 2 5学部6研究科における教育の充実

## 【6】〈医学研究科〉

高度な学識と実践能力の養成、地域社会や国際社会で活躍・貢献できる人材の育成、研究成果の還元等、社会情勢に応じた取組を展開するほか、感染症対策や公衆衛生施策を担う専門的人材の教育・研究指導を強化する。あわせて、データ思考人材やイノベティブ人材を育成する教育研究体制の構築、研究指導を行うとともに、その評価によって質を高める活動を推進する。

また、医療現場で働く学生に向けても、高度な専門性に立脚した実践力を養成するプログラムを展開する。

主な指標	◆学際的連携の推進
------	-----------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ヘルスデータサイエンス専攻とのデュアルディグリー<sup>7</sup>制度の推進
- ② 次世代研究者挑戦的研究プログラム事業(SPRING)の推進<sup>8</sup>(\*重点)
  - ・令和9年度からの再支援申請に向け、学内関係部署と連携してキャリア支援制度を見直すとともに、他大学との連携・交流を通じて学生の視野を広げる取組を進める。
- ③ ◆学際的連携(医理連携セミナーや科目提供等)の推進

## 【定量的指標】

- ④ 教育評価アンケートの満足度:80%/年
- ⑤ 医理連携セミナーの実施回数:2回/年、参加者数前年度比120%
- ⑥ 病院助教における博士学位(医学)の取得者の増加:前年実績以上

<sup>7</sup> デュアルディグリー制度:複数の研究科の学位プログラムを併行して履修し、修了することで、2つの学位を同時に取得できる制度。ここでは本学医学研究科とヘルスデータサイエンス専攻の学内プログラム同時取得を指す。

<sup>8</sup> 次世代研究者挑戦的研究プログラム事業(SPRING):博士後期課程の学生を対象に経済的支援、キャリア支援等を行い、研究に専念できるようにすることで、科学技術・イノベーション人材を育成する事業

## 3 時代に即した学修環境・学生支援の提供

## 【7】学修者本位の教育に向けた学修環境提供

LMS<sup>9</sup>等を活用した学修履歴の可視化を通して、学生が将来を見据えて主体的に学生生活を送り、成長できる学修環境を提供することで、学修者本位の教育を実践する。

また、学術情報については、日常の利用者とのやり取りやアンケート等により学生や教員のニーズを的確に把握し、それに沿った資料の整備や利用環境の充実、資料利活用促進のための取組を進めるとともに、授業連携・教育研究支援を推進する。

主な指標	◆学生の主体的な学修を支援する取組の推進
------	----------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆学生の主体的な学修を支援するための、LMS「YCU-Board」のポートフォリオ機能の活用推進
- ② 費用対効果等を踏まえた本学の学修・研究に必要となる資料の整備

## 【定量的指標】

- ③ 資料利活用促進を目的とした展示回数：学内12回/年(外部との連携2回)、オンライン6回/年
- ④ 資料利活用促進を目的としたSNSの配信回数：120回/年
- ⑤ 学生満足度(ガイダンス受講アンケート等)：80%/年(令和9年3月15日時点実績)
- ⑥ ガイダンス資料閲覧回数 ※動画視聴回数+資料閲覧数の合計：3,000回/年

<sup>9</sup> LMS(Learning Management System)：学修管理システムのこと

## 3 時代に即した学修環境・学生支援の提供

## 【8】学生生活支援

多様な学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、心身の健康に関する支援を行うとともに、経済的な理由で学びを諦めることのないよう、国における今後の制度の充実の方向性などを踏まえ、周知の徹底に努めるほか、必要な学生に対する丁寧な相談等を行う。

また、課外活動では、特にボランティア活動による地域貢献や、SDGsに向けた取組への支援を推進する。あわせて、学生一人ひとりが個性を發揮し、自ら課題解決する力を身につける機会を創出する。学生への支援にあたっては、社会情勢の変化を踏まえ、学生のニーズに即した制度設計、環境整備を進める。

主な指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SDGs関連取組の課外活動支援数:4件/年</li> <li>◆ボランティア派遣数:650人/年</li> <li>◆学生定期健康診断受診率:85%/年</li> </ul>
------	---

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① 日本学生支援機構(JASSO)を始めとした各種経済支援制度について必要とする学生への周知徹底
- ② 障害学生等の支援に関する教職員向け研修の実施及び学生向けの周知啓発

## 【定量的指標】

- ③ ◆SDGs関連取組の課外活動支援数(VI地):4件/年
- ④ ◆ボランティア派遣数(VI地):650人/年
- ⑤ ◆学生定期健康診断受診率:85%/年

4 多様で優秀な人材の獲得と輩出

【9】優秀な人材の獲得

高等学校新学習指導要領に対応した入学者選抜を実施するとともに、積極的な入試広報活動を進めることで、多様で優秀かつ本学が求める人材の入学者受入れを目指す。高大連携事業では、市立高校とのオンラインも活用した連携の仕組みを構築し、あわせて、県立・私立高校にも展開し、より多くの高校生に本学の強みや特長を伝える機会を創出する。

また、今後策定するグローバル教育の方針に基づき、教育・研究の充実及びキャンパスの国際化を推進するため、優秀な外国人留学生の戦略的な獲得に向け、国際共修プログラム等の拡充により外国人留学生にとって魅力あるカリキュラムを提供するとともに、質の高い交流が可能な海外協定校との関係づくりを進める。

主な指標	<p>◆本学受験の決め手として「教育理念・目標、教育内容・カリキュラム」を選択した学生：第3期の平均(82%)超/年</p> <p>◆横浜市教育委員会と連携した市立高校を対象としたプログラムの実施</p>
------	--

令和8年度

【定性的指標】

- ① 志願者数の獲得及び優秀な学力層の学生獲得
- ② 入学後の学修成果に関する状況の把握と傾向の確認
- ③ 高大連携事業における、オンラインを活用したプログラムの神奈川県内(市立・県立・私立)高校への展開(VI地)
- ④ ◆横浜市教育委員会と連携した市立高校を対象としたプログラムの実施(VI地)
- ⑤ 横浜市立高校と医学部・データサイエンス学部等との連携の拡充

【定量的指標】

- ⑥ ◆本学受験の決め手として「教育理念・目標、教育内容・カリキュラム」を選択した学生割合：第3期の平均(82%)超/年
- ⑦ 交流レベルの落ちている既存協定校との交換留学活性化(VIIグ)：3校/年
- ⑧ 外国人講師招聘による英語で学ぶ科目提供(VIIグ)：履修者 60 名/年、開講科目2件/年、外国人講師招聘人数 2名/年
- ⑨ 交換留学生満足度調査満足度(VIIグ)：80%/年
- ⑩ 交換留学生数(VIIグ)：前年受入数以上

## 4 多様で優秀な人材の獲得と輩出

## 【10】キャリア支援

社会情勢を見据えながら、学部生・大学院生・外国人留学生それぞれの将来目標に向けた多様なキャリア支援の体制を強化する。そのために、共通教養におけるキャリア形成科目及びインターンシップのさらなる充実を図る。

また、社会や地域で活躍する人材をはじめ、国際社会の発展に貢献できる人材の輩出に向けたキャリア支援・教育を実施する。外国人留学生については、「YCU-ADVANCE Program<sup>10</sup>」により産官学一体となって提供する質の高い教育プログラムを通じ、高度外国人材を輩出する。本プログラムに日本人学生等が参加することで、キャンパスのダイバーシティを推進し、相互に学び合い、日本で暮らし働く魅力を伝えることで、外国人留学生の国内就職を支援する。

主な指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆就職希望者における就職率:全国平均値1%超/年</li> <li>◆学生満足度(進路関連):第3期の平均(89%)超/年</li> <li>◆医学部看護学科卒業生の附属2病院への就職率:60%/年</li> <li>◆国内就職希望の外国人留学生における国内企業等就職率・内定率:第3期の平均(83%)超/年</li> </ul>
------	--

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① 国の方針を踏まえ、インターンシップをテーマとした学内合同企業説明会を拡充し、企業との接点を増やすことで、キャリア・職業観の醸成を促進(\*重点)
- ② 社会情勢の変化に対応し、進路の多様化や個別性に応じたキャリア教育・キャリア形成支援を実施(VI地)
- ③ 外国人留学生や海外留学を希望する学生など多様な属性の学生が、就職・進学・留学等の進路を主体的に考える機会を得られるよう、キャリア支援イベント等を実施(VIIグ)
- ④ 次世代研究者挑戦的研究プログラム事業(SPRING)とキャリア支援センターが連携し、博士後期課程学生や博士進学志望者に、博士取得後のキャリアパスを検討するためのキャリア形成支援イベント提供や個別相談を実施(VI地)(\*重点)

## 【定量的指標】

- ⑤ ◆就職希望者における就職率:全国平均値1%超/年
- ⑥ ◆学生満足度(進路関連):第3期の平均(89%)超/年
- ⑦ ◆看護学科卒業生の附属2病院への就職率(VI地):60%/年
- ⑧ ◆国内就職希望の外国人留学生における就職率・内定率(VIIグ):第3期の平均(83%)超/年
- ⑨ YCU-ADVANCE Program 修了率(VIIグ):80%/年

<sup>10</sup> YCU-ADVANCE Program:令和4年3月31日に文部科学省「留学生就職促進教育プログラム」に認定された教育プログラムで、自治体、企業、大学が担う役割を具体化し、留学生の入学から卒業、そして入社後までの一貫したキャリア形成支援を産官学一体となって推進するもの

## 5 社会人の学び直し

## 【11】リカレント教育をはじめとする社会ニーズに対応したプログラムの充実

本学の強みを活かし、社会的に不足が見込まれるデジタル人材等をはじめ、社会の変化に対応できる実践的・専門的な知識や能力の修得を目的とする教育プログラムの充実を図る。地域社会や企業等と連携するとともに、オンラインを活用した授業の実施や、みなとみらいサテライトキャンパスの活用など、現役社会人世代にも受講しやすい環境を整備し、リカレント教育を推進する。

主な指標	◆「リカレント教育」に係るプログラム設置数:15件/最終年度
------	--------------------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① 企業と連携したリカレントプログラムの提供とネットワークの形成(VI地)(\*重点)
- ② 社会ニーズに対応した質の高いエクステンション講座の実施(VI地)

## 【定量的指標】

- ③ ◆「リカレント教育」に係るプログラム設置数(VI地):14件/年
- ④ YCU医療経営・政策プログラム学外受講者数(VI地):10名以上

## II 研究

### 1 先進的・学際的研究等の推進

#### 【12】先進的な医科学研究の推進

新興・再興感染症など、社会的インパクトのある先進的な医科学研究を推進するとともに、難病ゲノム研究など世界レベルの基盤技術に基づく研究拠点として、その研究成果が将来の医療につながるような、トランスレーショナルリサーチ<sup>11</sup>を加速化し、地域や社会課題の解決を目指す。

また、研究倫理順守を徹底し、臨床研究の信頼性・安全性を確保した臨床研究を実施するとともに、研究の更なる促進を目的として臨床研究支援体制の充実を図る。

主な指標	<ul style="list-style-type: none"><li>◆主要な学術誌等掲載論文数:第3期の実績 10%増/期間中(累計目標:6,610 件) *Web of Science に掲載されたもの</li><li>◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数:第3期の実績 10%増/期間中(累計目標:864 件)</li><li>◆臨床研究法における臨床研究の実施件数:80 件/期間中</li><li>◆新規治験の受入件数(医師主導治験も含む):【附】150 件/期間中 【セ】130 件/期間中</li></ul>
------	---

#### 令和 8 年度

##### 【定性的指標】

- ① J-PEAKS を通じて研究力の評価・分析体制を整備し、研究支援の重点化を図ることで、より高度な研究の推進と社会実装を加速する。(VI地)(VIIグ)(\*重点)
- ② 【附・セ】各診療科・センター等へ臨床研究指導員・管理員を配置し、臨床研究の適正管理を支援

##### 【定量的指標】

- ③ ◆主要な学術誌等掲載論文数:4,409 件/5~8年度累計(進捗率 66.7%)(\*重点)
- ④ ◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数:576 件/5~8年度累計(進捗率 66.7%)(\*重点)
- ⑤ ◆臨床研究法における臨床研究の実施件数:15 件/年
- ⑥ ◆新規治験の受入件数(医師主導治験も含む)受入件数:【附】25 件/年 【セ】22 件/年

<sup>11</sup> トランスレーショナルリサーチ:基礎研究の成果の中から有望な知見を選び出し、医療としての実用化につなげることを目的とする医学研究の一領域

## II 研究

### 1 先進的・学際的研究等の推進

#### 【13】各領域における研究活動の推進

学長のリーダーシップのもとに、研究IRにより、本学の「強み」や今後期待される研究分野を見出し、それらを「戦略的研究推進事業」として支援・展開していくことで、革新的な研究成果を創出する。さらに、学際的研究を推進することで、次の「強み」となる研究分野を創出していく。

主な指標	◆主要な学術誌等掲載論文数(再掲):第3期の実績 10%増/期間中(累計目標:6,610 件) ◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数(再掲):第3期の実績 10%増/期間中(累計目標:864 件)
------	--

#### 令和 8 年度

##### 【定性的指標】

- ① 研究力評価ワーキング(J-PEAKS)において評価、分析体制の整備を行い、重点的に支援すべき研究分野や研究者等の見極めが行える体制を整える。

##### 【定量的指標】

- ② ◆主要な学術誌等掲載論文数(再掲【12】):4,409 件/5~8年度累計(進捗率 66.7%)(\*重点)
- ③ ◆主要な学術誌等掲載論文数に対する Top10%論文数(再掲【12】):576 件/5~8年度累計(進捗率 66.7%)(\*重点)

## II 研究

### 2 オープンイノベーションの推進

#### 【14】オープンイノベーションの推進

研究・産学連携推進センターを中心とした研究支援体制を強化し、オープンイノベーションの推進、産官学連携や知的財産の活用促進、大学発ベンチャーの創出等を通じて、研究成果の社会実装を進める。

また、本学が採択された大型産官学共創拠点事業を組織的に推進するとともに、さらなる拠点事業の獲得を目指す。学内外連携の活性化にあたっては、学内シーズの発掘から社会実装までをサポートする「共創イノベーションセンター」の設置・強化を進める。

主な指標	◆ベンチャー創出累計数:15 件/期間中 ◆民間企業等との共同・受託研究数:第3期の実績5%増/期間中(累計目標:2,202 件)
------	--

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 学内外の連携創出、研究活動の活性化に向け、オープンイノベーションラボの Immersive studio 整備をはじめ先端的な研究機器の導入を進める。(＊重点)

##### 【定量的指標】

- ② ◆ベンチャー創出累計数(VI地)(VIIグ):17 件/累計(進捗率 100%)
- ③ ◆民間企業等との共同・受託研究数(VI地)(VIIグ):1,468 件/5～8年度累計(進捗率 66.7%)
- ④ 共創イノベーションセンターが主導する共同・受託研究にかかる新規契約件数:12 件/年

## II 研究

### 3 研究基盤の強化及び支援体制の整備

#### 【15】研究基盤の強化

研究者が効率的・効果的に研究できる機器や設備等を整備するほか、研究支援人材の育成と学内連携の促進により、研究基盤を強化する。

主な指標	◆科研費採択件数:第3期の実績5%増/期間中(累計目標:3,407件) ◆科研費獲得金額:第3期の実績5%増/期間中(累計目標:5,977百万円)
------	--

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 即時オープンアクセス義務化への対応、及び本学研究力の可視化を目的に、論文及び研究データのオープンアクセス化支援を継続的に実施する。(機関リポジトリの利活用促進、GakuNin RDMの提供等)

##### 【定量的指標】

- ② ◆科研費採択件数 :2,271件/5~8年度累計(進捗率66.7%)
- ③ ◆科研費獲得金額 :3,985百万円/5~8年度累計(進捗率66.7%)

## II 研究

### 3 研究基盤の強化及び支援体制の整備

#### 【16】研究者の育成

「学術的研究推進事業」において、若手研究者や女性研究者等を支援するとともに、異分野融合研究を促進し、研究者の育成と研究領域の拡大を図る。

主な指標	◆科研費採択件数(再掲):第3期の実績5%増/期間中(累計目標:3,407件)
------	---

#### 令和8年度

##### 【定量的指標】

① ◆科研費採択件数(再掲【15】):2,271件/5~8年度累計(進捗率66.7%)

### III 医療

#### 1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

##### 【17】患者本位の医療の提供

医師や看護師等の医療従事者が、医学的知識の充実に加え、患者に寄り添うことで、患者自身が自分らしい治療を選択し、納得感をもって治療を受けることができるよう、患者本位の医療に対する意識の向上を図る。

また、患者ニーズに沿ったデイスার্ஜェリー(日帰り手術)の整備や多床室の個室化等療養環境の向上に取り組む。

主な指標	◆患者満足度:【附】80% 【セ】80% /最終年度
------	----------------------------

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 【附・セ】臨床倫理コンサルテーションチーム活動を通じて、現場における倫理的課題の対応力を向上させ、上部組織である臨床倫理委員会において、全体的課題の共有・検討を実施
- ② 【セ】医学的知識の充実や患者本位の意識向上を図るため、院内研修会、eラーニングによる研修の実施
- ③ 【附・セ】患者ニーズ等を踏まえた日帰り手術の推進

##### 【定量的指標】

- ④ ◆患者満足度:【附】79%/年 【セ】78.5%/年

### III 医療

## 1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

### 【18】安全・安心な医療の提供

全ての教職員が、医療に携わる者としての倫理観を有し、患者の安全を最優先に考えることのできる「安全文化」を醸成することで、より安全で質の高い医療の提供を実現する。また、医療の質を可視化した臨床指標や外部認証等を活用し、継続的な改善の取組を行っていく。

さらに、新興感染症等に対応可能な体制整備、情報セキュリティ及び個人情報保護の強化、計画的な施設・設備の改修等により、患者安全を推進する。

主な指標	◆医療安全管理研修の受講率：【附】100% 【セ】100% /年 ◆病院機能評価「一般病院3」継続：「認定」/【附】令和8年度受審予定 【セ】令和6年度受審
------	---

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 【附・セ】医療の質向上のため「医療の質可視化プロジェクト」に参加
- ② 【附】より安全性を高めるための医療安全管理部門の充実
- ③ 【附・セ】福祉保健センターや地域の医師会と連携し、新興感染症等の発生を想定した訓練の実施
- ④ 【附】新興感染症の迅速検査及び診療体制の構築
- ⑤ 【附・セ】個人情報の適正な管理に向けた対策の実施
- ⑥ 更新計画に基づき施設・設備の改修を実施
- ⑦ ◆病院機能評価「一般病院3」継続：「認定」(\*重点)  
【附】令和8年度受審予定  
【セ】令和6年度受審後(令和7年度認定(予定))の期中確認対応

##### 【定量的指標】

- ⑧ ◆医療安全管理研修受講率：【附】100%/年 【セ】100%/年
- ⑨ 感染対策研修受講率：【附】2回/年 100% 【セ】2回/年 100%

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

**【19】 医療における DX の推進**

附属2病院の統合・再整備を見据えて業務の標準化・効率化に取り組み、病院情報システムの統合の実現を目指す。情報ネットワークや医療情報の更なる活用により、医療の質の向上や業務改善、地域での連携強化に取り組んでいく。

また、情報の高度利用、サイバー攻撃の増大などネットワーク利用環境の変化に対応したセキュリティ対策を実施する。

主な指標	◆病院情報システムの統合(令和8年度まで)
------	-----------------------

令和8年度

**【定性的指標】**

◆病院情報システムの統合

◆【附・セ】研究等支援を目的とした病院情報システムのデータ抽出・提供の実施(VI地)

- ① ◆【附・セ】DPCデータ等による経営改善やクリニカルパスによる標準化及び医療の質向上に向けた分析の実施
- ② ◆【附・セ】附属2病院の電子カルテを統合した新病院情報システムの稼働開始及び安定稼働の維持(\*重点)
- ③ 【附】コマンドセンター<sup>12</sup>やデータの活用による経営改善・業務改善の実施(\*重点)

**【定量的指標】**

- ④ 【附・セ】サイバー攻撃を想定した病院情報システムの停止時運用訓練の実施:【附】1回/年 【セ】1回/年
- ⑤ DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合:76%/年(【20】再掲)※コマンドセンター等活用による効果として
- ⑥ 病院情報セキュリティ研修の開催:【附】1回/年 【セ】1回/年

<sup>12</sup> コマンドセンター:電子カルテをはじめとする各種院内データをほぼリアルタイムで分析・可視化するシステム

1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組

【20】 チーム医療の強化

患者にとって最適な医療が提供できる体制づくりを進めるとともに、病院長による強力なリーダーシップのもと、チーム医療の取組を進め、職種や組織を越えた病院全体の一体感を醸成する。

主な指標	<p>◆クリニカルパス適用率:【附】55% 【セ】60%/最終年度 ※患者状態と診療行為の目標及び評価・記録を含む標準診療計画</p> <p>◆DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合:【附】76% 【セ】75% /最終年度 ※全国の包括医療費支払制度を採用している病院における診断群分類別の平均在院日数</p>
------	---

令和8年度

【定性的指標】

- ① 【附・セ】多職種からなるAYA世代支援チームの取組の推進
- ② 【附・セ】多職種協働体制強化によるPFM<sup>13</sup>の推進と各種加算算定の向上
- ③ 【附・セ】病院長を中心に各種院内会議において、病院の将来像や重点項目等を決定し、院内周知を実施
- ④ 【附・セ】多職種で構成されたコマンドチーム<sup>14</sup>による取組の推進

【定量的指標】

- ⑤ ◆クリニカルパス適用率 :【附】53%/年 【セ】58%/年
- ⑥ ◆DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 :【附】76%/年 【セ】75%/年
- ⑦ 【附・セ】各病院の課題解決と経営安定化に向けた取組の推進、及び2病院合同による経営課題協議の促進:会議体開催:10回/年(\*重点)

<sup>13</sup> PFM(Patient Flow Management):中央病床管理を行い、病床の効率的な運用を図り、患者の流れをスムーズにするシステム

<sup>14</sup> コマンドチーム:コマンドセンターを活用し安全な医療と効率的な病院経営を両立させるために設置された病院長直下のプロジェクトチーム

2 質の高い医療の提供

【21】高度で質の高い医療の提供

附属2病院の統合を視野に入れた医療機器や施設・設備の計画的な更新に加え、豊富な症例と各々の強みや特色を活かした診療機能の充実を図る。あわせて、先進医療の取得・実施に積極的に取り組み、より高い水準の医療の提供を目指す。

また、附属病院では、市内唯一の特定機能病院として、がんや難病性疾患を中心に高度で先進的な医療を提供するとともに、「がんゲノム医療拠点病院」や「臨床研究中核病院」の認定を目指し、取組を進める。

センター病院では、市内唯一の高度救命救急センターとしての役割を果たすとともに、高度急性期病院として地域の医療ニーズに的確に対応する。これらの取組とともに臨床指標等を活用し、医療の質を高めていく。

主な指標	<p>◆手術件数：【附】7,500 件 【セ】9,600 件 /最終年度</p> <p>◆クオリティインディケーターに基づく医療の質の向上</p> <p>※医療の質を評価する指標のこと。提供している医療が本当に質の高いものであるかどうか、課題があればそれが改善されているかどうか等を数値として示すことでよりエビデンスに即した質の高い医療の提供ができるとされている。</p>
------	--

令和 8 年度

【定性的指標】

- ① 医療機器や施設・設備について、附属2病院統合を踏まえた共同購入や工事の実施
- ② 【附】遠隔ICU事業の推進(VI地)
- ③ 【附・セ】先進医療申請の可能性のあるものについて、早期に厚生労働省の先進医療事前相談を受け、研究計画書作成を実施
- ④ 【附】臨床研究中核病院の承認要件を維持できる研究力を保持することを目指し、研究実施体制や研究支援体制の拡充策を検討し施行(VI地)
- ⑤ ◆【附・セ】クオリティインディケーターに基づく医療の質の向上(VI地)
- ⑥ 【附】手術支援ロボット拡充による患者への負担(侵襲)が少ない手術の更なる推進(\*重点)

【定量的指標】

- ⑦ 【セ】高度救命救急センター(三次救急)と ER 部(二次救急)の運用一体化による救急患者応需体制の強化:救急車受入台数 5,400 件/年(\*重点)
- ⑧ ◆手術件数(VI地):【附】7,500 件/年 【セ】9,600 件/年
- ⑨ ◆先進医療申請のための先行研究着手件数(VI地):【附】1件/年 【セ】1件/年
- ⑩ ◆救急応需率(VI地):【附】90%/年 【セ】90%/年(三次救急)、90%/年(二次救急)

### III 医療

## 2 質の高い医療の提供

### 【22】医療の国際化への対応

市内の外国人患者は今後も増加が見込まれ、附属2病院の統合・再整備の候補地においても在住外国人が多く見込まれることから、外国人患者を円滑に受け入れるため、環境の整備を進めていく。センター病院ではJMIP認証(外国人患者受入れ医療機関認証制度)に向けての取組を進める。

主な指標

◆外国人患者のニーズに対応した環境の整備

令和8年度

【定性的指標】

- ① 【附】JMIP対策WGの運営、JMIP受審及び認証取得(VIグ)
- ② ◆【附】院内サインを2か国語表記にする等の外国人患者のニーズに対応した環境の整備(VIグ)

【定量的指標】

- ③ 【セ】医療通訳を利用した外国人患者の満足度 90%/年

3 政策的医療への貢献、地域医療の推進

【23】政策的医療の推進

市、県及び地域医療機関との連携関係のもと、政策的医療(周産期・小児・生殖・精神・救急・がん・災害時医療等)においても、高度で先進的な医療を提供する中心的存在であり続ける。あわせて、附属2病院で連携して、他の医療機関では対応できないような緊急性及び重症度が高い患者を中心に救急患者の受入れを積極的に行い、地域における「最後の砦」としての役割を果たす。

主な指標	◆救急応需率:【附】90% 【セ】90% /最終年度 ◆不妊治療件数 <sup>15</sup> :【セ】男性 250 件、女性 215 件 /最終年度
------	---

令和 8 年度

【定性的指標】

- ① 【附・セ】地域がん診療連携拠点病院として、神奈川県がん診療連携協議会及び各部会に参加し、院内への情報発信や情報共有の実施(VI地)
- ② 【附・セ】附属病院とセンター病院のがんゲノム連携体制による更なるゲノム医療の推進(VI地)
- ③ 【附・セ】「災害拠点病院」として、DMAT隊員を中心に災害現場医療救護活動を実施(VI地)
- ④ 【セ】神奈川県周産期救急医療システムの基幹病院として、緊急性や重症度の高いハイリスク妊産婦及び新生児の受入れの実施(VI地)

【定量的指標】

- ⑤ ◆救急応需率(VI地):【附】90%/年 【セ】90%/年(三次救急)、90%/年(二次救急)
- ⑥ ◆不妊治療件数(VI地):【セ】男性 220 件/年、女性 215 件/年

<sup>15</sup> 不妊治療件数:男性は精索静脈瘤手術、精巣内精子採取術。女性は融解胚移植件数

3 政策的医療への貢献、地域医療の推進

【24】地域医療への貢献

市や県の地域包括ケアシステムを踏まえながら、地域の医療機関との紹介・逆紹介のさらなる推進により連携強化・機能分化を進め、在院日数や外来患者数の適正化につなげる。さらに、高齢社会の進展に伴い、患者が住み慣れた地域で安心して退院後の生活が送れるよう支援を図る。

また、附属2病院統合を見据え、二次医療圏<sup>16</sup>の横浜市のみならず、三次医療圏<sup>17</sup>の神奈川県においても高度な治療を必要とする患者に貢献する病院を目指していく。あわせて、高度・先進的な治療実績、研究成果等を市民や他の医療機関へ積極的に発信し、地域のニーズに合った医療講座や研修・実習を提供することで、市民の医学知識の向上と健康意識の啓発・促進を図りつつ、地域の医療機関等との連携を促進していく。

主な指標	◆紹介割合：【附】90% 【セ】100% /最終年度 ◆逆紹介割合：【附】60%【セ】50% /最終年度 ◆外来初診患者数：【附】160人/日 【セ】177人/日 /最終年度 ◆新入院患者数：【附】18,000人 【セ】20,200人 /最終年度 ◆DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合(再掲)：【附】76% 【セ】75% /最終年度
------	--

令和8年度

【定性的指標】

- ① 【附・セ】訪問や研修会、勉強会等を通じた病診・病病連携の強化による医療機能分化の推進(VI地)
- ② 【附・セ】病院のWebサイトのSEOやユーザビリティに係る効果測定を根拠とした広報機能の強化

【定量的指標】

- ③ 【附・セ】Web予約システムによる、患者及び地域医療機関の利便性向上：  
【附】Web予約率30% 【セ】Web予約率38%
- ④ ◆紹介割合(VI地)：【附】89%/年 【セ】94%/年
- ⑤ ◆逆紹介割合(VI地)：【附】56%/年 【セ】50%/年
- ⑥ ◆外来初診患者数(VI地)：【附】160人/日 【セ】180人/日
- ⑦ ◆新入院患者数(VI地)：【附】18,500人/年 【セ】21,020人/年
- ⑧ ◆DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合(再掲【20】)：【附】76%/年【セ】75%/年
- ⑨ 【附・セ】病院Webサイト全体のPV数前年度以上

<sup>16</sup> 二次医療圏：救急医療を含む一般的な入院治療を提供する医療圏

<sup>17</sup> 三次医療圏：精神病棟や感染症棟、結核病棟などの専門的な医療、または高度で先端の医療を提供する医療圏

4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

【25】医療人材の育成

高度化・複雑化する医療への対応を図るため、看護師・コメディカルのスキル向上に向けた取組を進める。研修医においては、シームレスな教育研修体制を意識し、良質で魅力的な研修プログラムを整備することで、全国から優秀な医学生を確保する。本学の研修プログラムを通じて育成された医療人材が将来的に横浜市医療に貢献できるよう、基幹型臨床研修病院として積極的に地域の医療機関での研修も進めていく。

また、看護師等においては、附属2病院と看護学科・学科専攻が臨床(看護の実践)・人材育成・教育・研究・地域貢献の各分野において、交流と連携を強め、個々の取組を一体的に進める。

主な指標	◆特定行為研修を修了し、当該特定行為に従事する看護師：【附】6名 【セ】12名 /最終年度 ◆初期研修医のマッチング率：【附】100% 【セ】100% /年
------	---

令和8年度

【定性的指標】

- ① 【附・セ】高度化・複雑化する医療に対応するため、質の高い看護師・コメディカルの育成(VI地)
- ② 【附・セ】専攻医及び臨床研修医の確保と育成(VI地)

【定量的指標】

- ③ ◆特定行為研修を修了し、特定行為に従事する看護師(VI地)：【附】3名/年【セ】2名/年
- ④ ◆初期研修医のマッチング率(VI地)：【附】100%/年【セ】100%/年
- ⑤ 臨床実習指導者講習会の受講者数(VI地)：【附】8名/年【セ】8名/年
- ⑥ 特定集中治療室管理料に関わる看護師育成(VI地)：【附】3名/年

## IV 法人経営

### 1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化

#### 【26】ガバナンス強化

理事長・副理事長のトップマネジメントのもと、全教職員が一丸となって中期計画の達成に向けた取組及び経営改革を確実に推進する土台として、コンプライアンスの推進、内部統制の確立をはじめとするガバナンス強化に取り組む。また、透明性を確保するため、法人に関する情報は引き続き適切に開示する。

主な指標	◆「公立大学ガバナンス・コード」に基づく体制の推進
------	---------------------------

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① ◆内部通報制度の適正な運用及び窓口の周知
- ② ◆内部監査を複数回実施することによる、内部統制に関する独立的評価の強化
- ③ 法人に関する情報の適切な開示の継続

## 2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

## 【27】DX 推進及び業務改善

教職員が限られた時間でより効率的に業務に携わることができるように業務や手続きを見直し、それに対応した事務システム等の構築をする。また、個別最適化された学修指導や戦略的な研究支援などを実現するための教育・研究関連データの集積と分析の仕組みを整備する。それらを支えるネットワーク基盤を含めた安全なインフラ環境を整備する。

主な指標	◆DXの方針に基づく業務改善の推進
------	-------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆生成 AI 活用を全学に展開し、研修や事例共有で業務効率化を推進。AI エージェント開発や RPA 等の具体的な事例を横展開し、利用を促進(\*重点)
- ② LMS「YCU-Board」の目標設定及び振返り機能の活用促進
- ③ J-PEAKS の研究力評価ワーキング等において論文、研究費、博士指導等の研究力データを一元的に俯瞰可能なシステムの構築、運用を行う。

## IV 法人経営

### 2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

#### 【28】自律的な運営に資する外部資金獲得施策の実施

外部資金のさらなる獲得に向けて、研究費については、研究者が効率的・効果的に研究できるよう研究支援体制を強化し、国の研究費や民間企業との受託・共同研究費などの積極的な獲得に努める。

寄附については、戦略に基づき、法人トップ(理事長、学長等)とファンドレイザーが先頭に立って渉外活動を行い、法人の特長を活かした大型寄附や継続寄附を教職員一丸となって獲得を目指す。

また、周年寄附事業等では、目標達成(20億円以上)を目指し、法人内の寄附意識の浸透を図る。

主な指標	◆科研費獲得金額(再掲):第3期の実績5%増/期間中(累計目標:5,977百万円) ◆寄附獲得額:20億円/期間中
------	--

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① 寄附戦略に基づき、法人トップ(理事長、学長等)とファンドレイザーが先頭に立ち、法人の特徴を活かした大型寄附や継続寄附の獲得に取り組む。(※重点)

##### 【定量的指標】

- ② ◆科研費獲得金額(再掲【15】):3,985百万円/5~8年度累計(進捗率66.7%)
- ③ ◆寄附獲得金額:100百万円以上(渉外活動による大型寄附を除く)、1百万円以上の寄附30件/年(※重点)

## IV 法人経営

### 2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

#### 【29】法人全体の効率的かつ効果的な運営

市における厳しい財政状況を勘案しつつも、自律的かつ持続可能な法人経営を実現するため、外部資金のさらなる獲得、管理する拠点(キャンパス)等のあり方の検討、学部・研究科ごとの評価指標及び特徴等の整理、企業連携、DX推進などの経営改革に法人全体で中長期的な視点で取り組む。

主な指標	◆経営改革に資する取組の推進
------	----------------

#### 令和8年度

##### 【定性的指標】

- ① ◆経営改善プログラム(大学部門)※の実施により経営基盤を強化する。(＊重点)
- ② ◆法人全体の経営改善・業務改善を進め、収支均衡を目指す。(＊重点)
- ③ 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)を通じて研究力向上を進める。(＊重点)

※経営改善プログラム:令和7年度から開始した大学部門の経営改善に向けた指針。外部資金 PJ、人件費適正化 PJ、舞岡・鶴見 PJ、維持管理費 PJ、見直し PJ、収益確保 PJ

## 3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

## 【30】コンプライアンスの推進

教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、注意を喚起する通知の時宜に応じた発出や教職員の目に触れやすい媒体を活用したコンプライアンス関連の啓発、事例研究等を中心とした効果的な研修等を実施する。

また、過去の情報漏えい事案を教訓とし、再発を防ぐ取組(個人情報取扱注意強化月間)や、個人情報の適正な取扱いが行われるよう継続的に研修を実施するなど、個人情報保護にかかる教職員の意識醸成を確実に進める。

さらに、内部不正も含めた情報セキュリティ向上のため、学内情報資産の一元管理化等を実施する。

主な指標	◆時宜に応じたコンプライアンスに係る啓発活動の実施
------	---------------------------

令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆コンプライアンス関連通知・広報誌の発出、研修の実施など、時宜に応じた啓発活動の実施
- ② ◆本学教職員のコンプライアンス意識調査の実施
- ③ ◆情報セキュリティに関する法人内ルールや最新のサイバー攻撃に対する対処方法などの理解促進

## 【定量的指標】

- ④ コンプライアンス関連通知・広報の発出:12回/年
- ⑤ コンプライアンス関連研修の実施:3回/年
- ⑥ 情報セキュリティ研修の実施:2回/年、理解度テスト平均80点以上

## 3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立

## 【31】リスクマネジメント・危機管理

既に各拠点、所属で運用している自己点検の仕組みを体系化し、内部統制システムとして一体的に運用することで、法人業務を阻害するリスク全般への対策等について適切な組織的共有を図るとともに業務の適正な執行を確保する。

学生・教職員の安全確保に向けた体制の強化を図るため、防災意識の向上及び危機発生時の対応力の強化を目的とした効果的な訓練を実施し、感染症の流行や自然災害などに備えてBCPを定期的に見直す。

主な指標	◆内部統制システムに基づく業務の適正な執行
------	-----------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆業務におけるリスク及び対策について、全学的なリスク傾向を経営層へ共有することで適正な業務執行に活用する。
- ② 定期訓練を通じて、発災時の初動対応や BCP の内容を確認・更新し、適正な事業継続の維持を図る。

## 【定量的指標】

- ③ 防災訓練の実施：大学5回/年、【附】5回/年、【セ】5回/年

## 4 教職員エンゲージメントの向上

## 【32】人材の育成と活用

社会情勢の変化に柔軟に対応できる法人経営を実現するため、すべての教職員が持てる力を最大限発揮し、学び合い、支え合う組織風土を醸成するとともに、時代のニーズを捉えた研修の実施や適材適所の人員配置、法人の実態にふさわしい人事制度の構築と不断の見直しによって、高度な専門性を有する人材を育成する。

主な指標	◆教職員意識調査(人事制度・キャリア形成関連):評価 2.2 点以上4点満点
------	--

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① 社会情勢や法人内のニーズに応じた人材育成研修の実施
- ② 【附・セ】病院経営に資する人材育成の推進のため、「YCU 医療経営・政策プログラム」や「ソーシャル・イノベーション研究プログラム(SIMBA)」の履修支援
- ③ 【附】各部のキャリアプランに沿った院内外における研修・セミナーの履修支援
- ④ 【附・セ】新採用及び異動の事務職員を対象に病院経営の改革を推進できる実践力の高い人材を育成するため「病院事務職員基礎研修」を開催

## 【定量的指標】

- ⑤ ◆教職員意識調査(人事制度・キャリア形成関連):評価 2.2 点以上/4点満点

## 4 教職員エンゲージメントの向上

## 【33】教職員が生き生きと働くための組織風土の醸成

全ての教職員が誇りや充実感を持って働くことのできる環境の実現に向け、ライフステージに応じた柔軟な働き方を構築し、健康保持の増進などに取り組む。

また、学生・教職員がお互いに多様性を認め合うとともに、多文化共生の推進や、障害者雇用の充実などに取り組む。附属2病院においては、医師の働き方改革等へ対応するために、引き続き、タスクシフト・タスクシェアなどを推進する。

主な指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教職員意識調査(ダイバーシティ推進関連):評価 2.7 点以上/4点満点</li> <li>◆障害者雇用率:法定雇用率以上/年</li> <li>◆配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の取得率:100%/年</li> <li>◆医師事務作業補助者数:【附】44 名 (15 対 1 加算 I)【セ】43 名(15 対 1 加算 I)/期間中</li> </ul>
------	--

## 令和 8 年度

## 【定性的指標】

- ① ダイバーシティ推進計画の周知及び啓発の実施
  - ・ダイバーシティ関連研修の実施
  
- ② 教職員の働き方・労働環境の改善
  - ・【事務】新卒内定者向け懇談会や採用後の面談、キャリアに応じた研修の実施
  - ・【看護】内定者向けプログラムの充実、内定者保護者会等の実施
  - ・【看護】1 年目職員個人に合わせた柔軟な個別プログラムの展開・看護師のキャリア支援のための進学補助
  - ・【看護】2交替勤務を含めた多様な働き方の検討
  - ・【附・セ】病院職員の労働環境向上への体制づくり、取組の推進・実施
  - ・【附】看護職員宿舍の設備改修
  
- ③ 医師の働き方の改善(\*重点)
  - ・【附・セ】医師の働き方改革の着実な推進・実施
  - ・【附・セ】医師の事務作業負担軽減の推進のため、上位区分の医師事務作業補助体制加算の取得
    - ※【附】医師事務作業補助体制加算2(15:1) 【セ】医師事務作業補助体制加算1(15:1)
  - ・学生に対する支援の充実
  - ・障害学生の支援に関する教職員向けの研修の実施及び学生向けの周知啓発
  - ・性的マイノリティを含む多様な学生・教職員に対する健康診断受診時の配慮及びキャンパス相談の実施
  - ・バリアフリー支援室による病気や障害のある学生の支援
  - ・安定的な国際混在型宿舍の確保と交換留学生への提供、交換留学生と本学学生との交流機会の創出
  - ・国内企業への就職を希望する外国人留学生に対する支援プログラムの実施

【定量的指標】

- ⑤ ◆教職員意識調査(ダイバーシティ推進関連):評価 2.7 点以上/4点満点
- ⑥ ◆障害者雇用率:2.8%/年
- ⑦ ◆男性の育児関連休業・休暇取得率:育児休業 50%/年、配偶者の出産に伴う休暇(3日以上):100%/年
- ⑧ 離職率:看護職(1年以内)13%以下/年、看護職以外(3年以内)16%以下/年
- ⑨ ダイバーシティ推進関連情報の周知(VIIグ):3回/年
- ⑩ 【附・セ】◆医師事務作業補助者数:【附】44 名 【セ】51 名

## 5 YCU の価値向上

## 【34】 創立 100 周年事業の実現

創立 100 周年記念事業プロジェクトを推進し、令和 10 年の記念式典の開催と百年史の発刊を行う。また、百年史の制作過程の可視化や各記念事業プロジェクトにおける情報発信などを通じ、学内の教職員のみならず学生や卒業生、企業といった学内外のステークホルダーにも認知されることで 100 周年に向けた機運醸成を図る。

主な指標	◆創立 100 周年記念事業プロジェクトの実施
------	-------------------------

## 令和 8 年度

## 【定性的指標】

- ① ◆創立 100 周年記念事業プロジェクトを推進し、創立 100 周年の機運醸成と愛校心・プレゼンスを向上する。

## 【定量的指標】

- ② イベント開催件数:3回/年  
 ③ 百年史・関連リーフレット発刊回数:2回/年  
 ④ 100 周年認知度:50%以上 (100 周年記念パネル展示会アンケート)

## 5 YCU の価値向上

## 【35】卒業生連携

周年事業を契機として卒業生との連携の在り方を社会連携の一環として捉え直し、単なる親睦の場ではなく、卒業生の力(経験や知識、寄附)を活かして大学の発展につなげるための環境整備を全学で推進する。あわせて、キャリア支援やリカレント教育など卒後も大学とつながるメリットを卒業生が感じられるような取組を進める。

主な指標	◆卒業生と大学のつながりを強化する取組の実施
------	------------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆同窓会地方支部へ法人トップの訪問、卒業生向けの広報活動を実施(VI地)
- ② ◆同窓会組織と連携したイベント開催を推進(VI地)

## 5 YCU の価値向上

## 【36】横浜市と連携したグローバルネットワークの構築

これまでの交流実績を踏まえ、学生のニーズを反映した海外協定校との質の高い交流を実施する。また、アカデミックコンソーシアム<sup>18</sup>の活動や国際都市横浜ならではのグローバルな視野が培われる交流や体験の機会を創出することで国際交流活動を推進するとともに、様々な取組を海外大学や外国人留学生に向けて広報発信し、グローバルネットワークの構築を図る。

主な指標	◆横浜市と連携した国際交流活動の実施件数:7件/年
------	---------------------------

令和 8 年度

## 【定量的指標】

- ① ◆横浜市と連携した国際交流活動の実施件数:7件/年(VIIグ)
- ② 世界大学ランキング 500 位以内の海外大学と交流を実施する協定数:3校/年(VIIグ)

<sup>18</sup> アカデミックコンソーシアム:アジアトップ大学と協働で都市の課題解決を目指す国際学術ネットワーク

## 5 YCU の価値向上

## 【37】 戦略的広報の展開

本学の優れた取組や魅力を、ステークホルダーに向け分かりやすく、かつ的確に発信するための広報戦略を策定し、発信力を強化する。これにより、創立 100 周年に向けて、大学の認知度を更に高め、法人の持続可能な経営基盤強化等につなげていく。

主な指標	◆広報戦略の策定及び推進
------	--------------

## 令和 8 年度

## 【定性的指標】

① ◆研究成果の国内外への情報発信や教職員の広報マインドの醸成による広報戦略の推進

## 【定量的指標】

② プレスリリース発信・ウェブ記事掲載件数:年間 180 件

## 6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進

## 【38】コーディネーター機能の強化による地域連携の推進

地域の行政・団体・企業等の地域主体と本学とが、研究・教育活動において連携・協働するために、地域貢献センターが相談窓口となり、地域と大学をつなぐ仕組みづくりとマッチングを推進し、地域ニーズに応じていく。

また、コーディネーターを活用した連携を一層促進するとともに、EBPM<sup>19</sup>の取組を推進する横浜市のシンクタンク機能としての役割を果たすため、データサイエンス等の専門的知見を活用する。

主な指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域貢献センター相談対応件数:60 件/最終年度</li> <li>◆市の施策立案等に関わる連携取組件数:50 件/期間中</li> </ul>
------	--

## 令和 8 年度

## 【定性的指標】

- ① コーディネーターを中心とした連携調整の充実(VI地)
- ② 「社会連携センター」設置による産官学連携・横浜市のシンクタンク機能の推進(VI地)(\*重点)

## 【定量的指標】

- ③ ◆社会連携センター相談対応件数:50 件/年(VI地)
- ④ ◆市の施策立案等に関わる連携取組件数:44 件/年(VI地)

<sup>19</sup> EBPM(Evidence-based Policy Making):政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠(エビデンス)に基づくものとする

## 7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進

## 【39】 附属2病院における連携の推進及び経営基盤の強化

新たな診療報酬体系への対応を図るほか、附属2病院間の連携を強化し、各々の強みや特色を活かした診療を行い、診療機能に見合った収益を確保していく。物品調達等をはじめとする附属2病院間の協働を強化し、共通化や共同購入を進めることで、コストを抑制する。また、附属2病院と医学部が、診療・教育・研究の各分野において交流と連携を一層強め個々の取組を一体的に進めていくことで、相乗効果を最大限発揮する。

主な指標	◆附属2病院の協働による取組の推進
------	-------------------

令和8年度

## 【定性的指標】

- ① 【附・セ】診療報酬の適切かつ確実な請求の実施及び施設基準の随時見直しによる上位区分の取得・新規施設基準の積極的取得
- ② 【附・セ】経営改善に向けた経営指標の活用
- ③ 【附・セ】附属2病院の医薬品と試薬の合同入札や、診療材料の共通化の推進
- ④ ◆【附・セ】附属2病院間人事交流、附属2病院と医学部の連携強化の未来志向※の取組推進  
※ YCU 看護アルumni・ネットワーク構築<sup>20</sup>、教員の大学院進学及び博士学位取得促進
- ⑤ 【附・セ】中央診療材料委員会の設置

## 【定量的指標】

- ⑥ 【附・セ】各病院の課題解決と経営安定化に向けた取組の推進、及び2病院合同による経営課題協議の促進(再掲【20】【29】):会議体開催:10回/年(\*重点)

<sup>20</sup> アルumni・ネットワーク:貴重な人的資源活用を目的とした離職者・卒業生等のネットワーク

## 7 医学部・病院等再整備事業を見据えた取組の推進

## 【40】医学部・病院等再整備の検討

医学部・附属2病院等については、狭あい化・老朽化による課題を抜本的に解決し、医療を取り巻く環境の変化に対応しつつ、将来にわたり市民の健康と命を支える「最後の砦」としての存在であり続ける必要がある。

あわせて、教育・研究・診療機能の一体整備による新たなイノベーションの創出、地域貢献の強化等も図るため、横浜市と連携しながら事業を推進し、新医学部・病院等が目指す姿や備える機能を検討し、実施計画の策定などを進める。

主な指標	◆実施計画の策定など再整備に向けた検討の準備
------	------------------------

令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆再整備事業の基本計画策定スケジュールの見直しを踏まえた整備手法等を市と調整・検討

## 8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり

## 【41】環境に配慮した計画的メンテナンス

カーボンニュートラルをはじめとする社会的要請への実現にあたり、建物のZEB<sup>21</sup>化を検討し、エネルギー効率を踏まえた計画的なメンテナンスを行うことで、長寿命化計画を推進する。特に、温室効果ガス排出量の抑制と電気使用量削減のため、照明のLED化や空調機器の更新を行う。

主な指標	◆長寿命化計画に基づくメンテナンスの実施
------	----------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆長寿命化計画を更新し、メンテナンスを実施

## 【定量的指標】

- ② 金沢八景キャンパスのLED化100%(倉庫等小規模建物除く)

<sup>21</sup> ZEB(Net Zero Energy Building):快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと

## 8 環境や交流を意識したキャンパス作り

## 【42】 交流を意識したキャンパスの充実

金沢八景キャンパスでは、第3期中期計画で策定したキャンパスマスタープランに基づき、イノベーション・commons(共創拠点)に資する「交流の場」整備を計画的に進める。福浦キャンパスでは、狭あい化対策の検討を進めるとともに、学生の教育環境充実や研究の促進等を図る。

また、優秀な外国人留学生を獲得し、教育・研究の充実及びキャンパスの国際化を推進するため、国際混住型留学生宿舎の検討を進め、外国人留学生と日本人学生等が共に生活し、学び合う環境を作り、多文化共生を推進する。

主な指標	◆交流・共創を推進する施設機能の整備
------	--------------------

## 令和8年度

## 【定性的指標】

- ① ◆交流・共創を推進する施設機能の整備に向けた調整(Ⅶグ)
- ② 安定的な国際混在型宿舎の確保と交換留学生への提供(Ⅶグ)
- ③ 交換留学生と本学学生との交流機会の創出(Ⅶグ)

## V 自己点検及び評価

### 【43】計画の浸透と適切かつ効果的な自己点検・評価の実施及び情報公開

中期計画の着実な達成に向けて全教職員に広く浸透するよう周知を徹底する。あわせて、客観的なデータに基づく自己点検・評価を定期的実施し第三者評価を受けることで、法人の課題を洗い出し、その課題の解決を継続的に進める。さらに、多様なステークホルダーに向けて法人の基本情報や教育・研究成果等の情報公開を促進する。

主な指標

◆第三者評価の受審及び課題等への継続的な対応

令和8年度

【定性的指標】

- ① ◆第三者評価の受審及び課題等への継続的な対応するとともに、年度計画の自己点検・評価を実施し、教職員に情報共有する。

## VI 地域貢献（横断的項目）

【8】【9】【10】【11】【12】【14】【19】【21】【23】【24】【25】【35】【38】

## VII グローバル展開（横断的項目）

【2】【9】【10】【12】【14】【22】【36】【42】

## VIII 短期借入金の限度額

### 1 短期借入金の限度額

30 億円

### 2 想定される理由

運営交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

## IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

## X 剰余金の使途

### 1 剰余金(目的積立金)の使途

剰余金は、教育研究及び医療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。

## XI その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

### 1 積立金の使途

第3期中期計画期間中に生じた積立金は、教育研究及び医療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。

### 2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

※本資料に記載した会社名、製品名、サービス名などは、各社の商標または登録商標です。なお、各社の商標記載においては商標表示(™、®)を付記していません。

【別表1】

1 予算

(単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営交付金	12,033
自己収入	83,250
授業料及び入学金検定料	2,726
附属病院収入	75,221
雑収入	5,303
受託研究収入等	4,395
長期貸付金収入	4
長期借入金収入	1,500
目的積立金取崩額	206
計	101,388
支出	
業務費	93,022
教育研究経費	5,259
診療経費	46,294
一般管理費	1,700
人件費	39,769
長期貸付金	70
施設整備費	2,968
受託研究費等	3,127
長期借入金償還金	1,447
計	100,634

※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

〔人件費について〕

- 1 賞与については、翌期以降の運営交付金により、財源措置を行うため、賞与引当金は計上していない。
- 2 退職手当については、法人の職員として勤務した期間の退職金相当額については、退職給付引当金の取り崩しにより財源措置をおこなう、横浜市の職員として勤務した期間の退職金相当額については、運営交付金により、財源措置をおこなう。

## 2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	100,515
經常費用	100,297
業務費	93,852
教育研究経費	5,657
診療経費	45,198
受託研究費等	2,899
役員人件費	46
教員人件費	11,188
職員人件費	28,865
一般管理費	1,529
財務費用	98
雑損	5
減価償却費	4,812
臨時損失	218
収益の部	100,404
經常収益	100,404
運営交付金	12,033
授業料収益	2,814
入学金収益	315
検定料収益	82
附属病院収益	75,221
受託研究等収益	4,406
雑益	5,533
臨時利益	-
純利益	▲ 111
目的積立金取崩額	206
総利益	96

※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

### 3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	100,634
業務活動による支出	95,128
投資活動による支出	2,968
財務活動による支出	2,538
資金収入	101,388
業務活動による収入	99,678
運営交付金による収入	12,033
授業料及入学金検定料による収入	2,726
附属病院収入	75,221
受託研究収入等	4,395
その他の収入	5,303
投資活動による収入	4
財務活動による収入	1,500
目的積立金取崩による収入	206

※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。